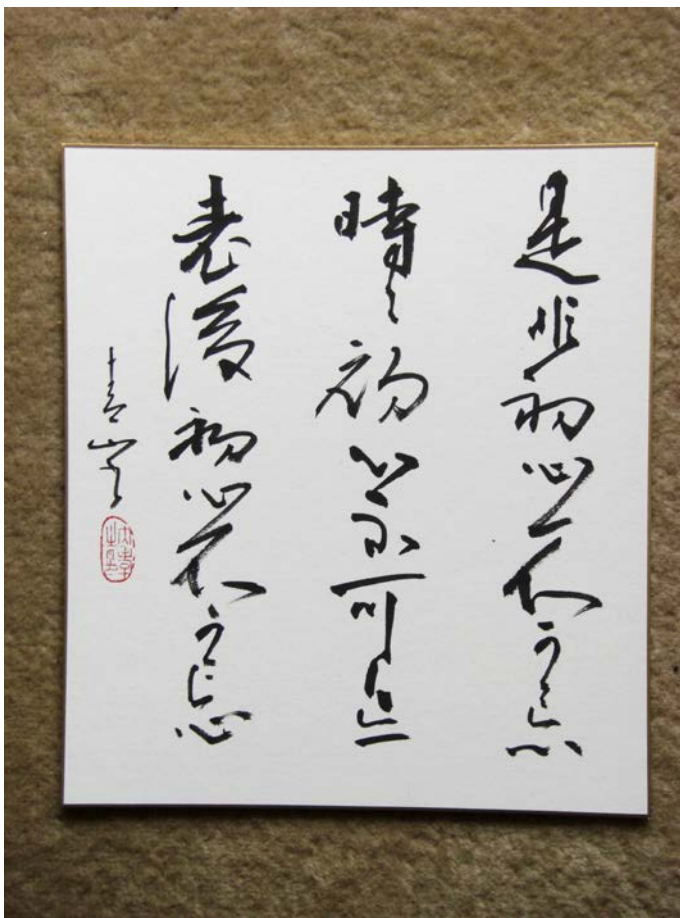


教職課程センターだより 第9号

発行日 2013年3月27日

初 心

教職課程副センター長 大和田孝士



先月、姪の結婚式がありました。式は仏式で、式場は本堂、服装は礼服、数珠を持参のこととあり、興味津々で出席しました。披露宴では、最初に天台宗宗機顧問で大正大学理事長という方が祝辞を述べられ、「初心忘るべからず」のお話をされました。

世阿弥は、その著書「花鏡」の中で「初心不可忘（忘るべからず）」と言っております。また、「是非初心不可忘、時々初心不可忘、老後初心不可忘」と口伝してもいます。これを私は自分流に、「ゼヒ初心不可忘、トキドキ初心不可忘、オイテノチ初心不可忘」と読み、「是非とも初心を忘れないように、時々は初心を思い出しなさい、年をとってからでも初心を忘れないように頑張りなさい」と勝手に解釈をしていました。しかし、このときの祝辞で、「初心とは、『事のはじめ、その時その時に心に期したこと』を言います」とお話があり、はたと気づきました。「時々初心不可忘」はトキドキ初心・・・ではなく、トキドキの初心だと。とすれば、「老後・・・」は、「老後の・・・」と読み、年老いてからもその年齢における初心を

忘れないようにという意味なのだと納得した次第です。

余談になりますが、大学生の頃、この三つの「初心不可忘」に出会い、興味深く「花鏡」を読みました。が、「初心忘るべからず」しか出てきませんでした。生来のものぐさも手伝い、これでは意味がヘンだなと思いつつも、これまでできてしまいました。

「初心忘るべからず」です。学生諸君も、いろいろな節目でその時々心に期すことがあったことと思います。近くは大学に入学したときに、そしてまた学年の進級とともに、その時々積み重ねられた「時々の初心」もあると思います。

今後も年齢を重ねられるごとに、そのステージ、ステージごとの初心を思い立たれることと思います。それら「時々の初心」を忘れることなく、初志を貫き通し、そして成就・達成されんことを願っています。

第6回教育実践交流会を開催 ―熱心に報告し、学び合う―

第6回日本福祉大学教育実践交流会が、2月9日（土）の10時40分から16時20分まで、日本福祉大学の美浜キャンパス510教室で、教員になっている卒業生、在学生、本学教職課程センター教員、計約40名が参加して開催された。

教育実践交流会は、当初、伊勢田ゼミの教員になっている卒業生を中心に、その後磯部ゼミなどの卒業生が加わって開催されてきた。今回は、今年度から教員になった子ども発達学部子ども発達学科の卒業生なども参加して開催された。

今回の教育実践交流会では、午前中はまず、

本学の卒業生で、愛知県特別支援学校長会会長、愛知県立名古屋養護学校校長の大場幸先生より「今後の特別支援教育」と題した講演があり、「連携」や「強さ」などの重要性、全体や流れをつかむことの大切さなどを強調された。次に、昨年度末に本学を退職された元子ども発達学部教授の伊勢田亮先生より「教育問題と地方教育行政の課題」と題した講演があり、教育員会の指導主事をされた経験を踏まえて、教育員会の自治的機関としての課題や事務局体制の課題、指導主事の専門性の課題などが指摘された。

午後は、教員になっている本学の卒業生からの教育実践報告を行った。インフルエンザなどのため当初報告を予定していた卒業生の欠席もあったが、小学校、特別支援学校、高校福祉科など計7名が報告し、それを基に質疑応答をした。

赤坂奈美子氏（豊浜小学校）と立松尚恵氏（豊田養護学校）、東谷安希子氏（半田養護学校）は、今年度現役で合格した初任の教員体験を、失敗談とともに、教員として成長した話を交えながら報告された。檜垣栄慈氏（千種聾学校）と今井友男氏（ひいらぎ養護学校）は、教員生活10年近い中堅教員として、檜垣氏の「ことばを育てるための教育的働きかけ」の報告のように、実践記録や交流学习など経験に基づいたしっかりとした教育実践を報告された。高木諒氏（海翔高校）は、初任ながら生徒とともに介護福祉士の国家試験に取り組んだ感動的な実践を報告された。最後に山城健悟氏（古知野高校）が、5年の教員経験を踏まえて、愛知県の高校福祉科などの総括的な報告をされた。

全体討議では、伊勢田先生より、卒業生の新任教員に対し「来年度以降への抱負は？」との質問があり、4人の初任の教員より、「個人をみながら全体をまとめる力をつけたい」などの抱負が語られた。また、本学の卒業生である澤田耕一氏（元名古屋市立小学校教諭）より、愛知県内の教員となった本学卒業生の組織である「あすなる会」について提案があり、今後の方向性について話し合った。在学生からの質問や意見を出し合う時間がなかったのは残念であったが、最後に在学性が「大変勉強になった」と感想を話した。


（教職課程センター長 磯部 作）



大場幸先生（愛知県立名古屋養護学校校長）




伊勢田亮先生（元子ども発達学部教授）



楽しく学んだフィールドワーク

子ども発達学部心理臨床学科3年 竹島史織




私達は10月28日に教友ゼミの学びの一環として京都へフィールドワークに出掛けました。実行委員の人たちと時間を見つけてはフィールドワークを楽しい思い出にしようという思いのもと、見学場所を決めたり、事前の下調べをしたりしました。事前の下調べをすることで、より、本物を実際に見てみたいという気持ちが出てきました。また、人数が足りないという状況にあったとき、他の参加してくれた子が呼びかけをしてくれたことが本当に嬉しかったです。京都の見学場所として選んだ場所は、二条

城、銀閣寺、南禅寺、清水寺です。バスを使って一日で回るという充実しつつも、なかなか移動に忙しくなりそうな行程になりました。


当日、私はこのフィールドワークが本当に楽しみで、いつもより早く目が覚めてしまいました。バスに乗って京都へ向かう道中、バスの中で行うレクリエーションを考えておけばよかったかなと少し後悔もしました。二条城では、昔の人たちの知恵が詰まったうぐいす張りの廊下に感動を覚えつつ、各々の部屋に飾られている障壁画の綺麗さに圧巻されました。足利義政によって建てられ、今まで教科書での写真でしか見たことのない、銀閣寺を目で見て体で感じることができました。また、特別拝観中だったので、貴重な書院造の様子を見ることもできました。南禅寺では、紅葉の時期ということもあり、華麗な枯山水で造られた庭園に感動を覚えました。清水寺では、各々で清水寺周辺を散策して、おみくじを引いて運勢を占ったり、食べ物を食べたり、たくさんの思い出を作ることができました。

今回のフィールドワークで、机の上だけでは学ぶことができない、歴史にまつわる建物や作品を実際に自分の目で確かめて学ぶことができました。また、同じ教員を目指す学生同士の交流においても、今回のフィールドワークは本当に意義深いものだったと思います。また機会があれば、企画し参加したいと思いました。



教職課程履修生の集いに参加して

子ども発達学部心理臨床学科3年 中川日香理



12月6日に教職課程履修学生の集いに参加して、教員採用試験合格者の方々から大変貴重なお話を聞くことができました。先輩方のお話は、とても説得力があり、今後のためになること、参考になることばかりでした。今回の集いを通して、どの先輩方も教師に対する強い思いや、「こんな先生になりたい」など自分が目指す教師像というものが、しっかりと持たれているのを強く感じました。それと同時に、「なぜ教師になりたいのか」「どのような教師になりたいのか」など改めて考えさせられ、自分自身を見つめ直すことができました。

また、実際に使用していた参考書などを紹介しながら筆記試験対策、面接や集団討論などの対策や心構えなどを丁寧教えて下さりました。私は、今までどう勉強したらよいかわからず、ただなんとなく勉強していました。しかし先輩方のお話を聞き、残り半年間をどうやって試験勉強を乗り切るか、教育実習との両立を図るかなど、今後の具体的な見通しを持つことができました。私も、先輩方のように教師に対する強い思いを持ち、来年教壇に立てるように、残りの半年間を悔いのない充実したものにしていきたいです。

教員採用試験を終えて

子ども発達学部初等教育専修4年 山岸美穂



私は、神奈川県相模原市と愛知県の教員採用試験を受験しました。本格的に試験勉強を始めたのは、3年生の1月頃です。時間もあまり無かったため、受験する自治体の傾向をつかみ、「ここは勉強する」「ここはしない」と割りきって勉強を進めていきました。勉強は、自分に合った環境や方法で行うことが最適だと思います。

何より、大学4年間で「誇り」をたくさんつくったことが私の力になったと思います。私は、大学4年間サークルや遊び、バイトばかりしていました。なので、試験勉強を始めた頃は、教員採用試験に受かるはずがないと思っていました。しかし、「無駄な時間はない」と考えるようになってから、サークルでの葛藤や仲間の存在、遊びの経験、バイトでの人との関わり等、私にはたくさんの「誇り」があると考え始め、自信をもつことができました。面接試験では、たくさんの「誇り」があったため、話す内容にも困らず、自分をアピールできたと思います。大学4年間で振り返って「誇り」をつくるのと同時に、4年生の5月から阿久比町の学習支援ボランティアに参加して、新しい「誇り」をつくっていったことも大きな力になったと思います。私と同じようにサークルばかりしていたという人や、自信がもてない人もいます。しかし、決して無駄な時間はありません。自分の4年間（あるいは人生）を振り返り、「誇り」をたくさんつくって力にしていってください。応援しています。

合格体験記

社会福祉学部社会福祉学科4年 梅田由香里

○勉強期間と時間について

私が本格的に採用試験の勉強を始めたのは、3年の後期に入ってからだったと思います。始めたばかりの頃は集中力が続かなくて、2時間ほどしか机に向かっていただけでした。3年の後期にこの勉強時間の短さということに対して焦りを感じつつも、やる気がない時にやってもしょうがないと開き直っていました。ただ、勉強を続けていくうちにだんだん机に向かっていられる時間が長くなっていきました。そのとき慣れて大切だなと思い、早く始められることは早く始めるべきだと改めて実感しました。

○勉強法について

次に私がどのように勉強していたかについて書いていきたいです。

私はとにかく同じ問題集を何度も繰り返すという方法をとりました。

教職教養と一般教養については『オープンセサミ』という問題集を使用し、間違えたところ、分からなかったところには印をつけ、解き方や参考書を見たあと、もう一度やってみるということをしました。この方法で1から順番に進めていき、最後までいったらまた1からというように何度も繰り返しました。

専門教養については範囲が広すぎるため、すべてには手が回らず、とにかく日本史・地理・公民のみを勉強していました。日本史は問題集1冊と参考書、そして高須先生の特別授業で、地理は問題集2冊と中学校の教科書・地図帳で、公民は現社と政経の問題集1冊ずつと中学校・高校の教科書で勉強しました。これらも一般教養や教職教養と同様の方法で勉強を進めました。

○さいごに

同じ問題集ばかりやっていると飽きてしまうなんてこともあるかもしれませんが、自分の苦手をしっかり把握するためには良い方法だと思います。また、高須先生の日本史の授業は本当に理解しやすく、面白いので、かなり力がつくと思います。

ほかにも、勉強に疲れた時や悩んだ時は先生のところに行って話を聞いてもらうことで良い気分転換にもなると思うので、教職課程センターの先生方に思う存分頼ることをおすすめします。

とにかくあきらめることなく最後まで頑張りぬいて下さい！



卒業生からの近況報告

特別支援学校教諭 澤山 花穂
(2011年3月社会福祉学部社会福祉学科卒業)

みなさんこんにちは。私は今、知的障害の特別支援学校で、高等部二年生の担任をしています。1クラス9～11名で担任は3～4名です。クラスには、自閉症・ADHD・ダウン症といった障害を持つ生徒がいます。現在、小中高合わせた全生徒数が約750名というマンモス校に勤務しており、毎日大勢の元気な子どもたちに囲まれながら生活しています。

働き始めて一年が過ぎようとしています、この一年は本当にあっという間でした。教員一年目は初任者研修という学校外で研修を受ける機会があり、午後から出張することも少なくありません。そのため、生徒と過ごす時間や授業準備に割く時間が減ってしまい戸惑う時期もありました。しかし、周りの先生方の協力もあり、研修で学んだ事を生かすために有意義な時間にしようという気持ちで取り組みました。

私が特別支援学校で働く上で心がけている事がひとつあります。それは、『待つ』ということです。子どもたちは一つ一つの作業に時間がかかったり、やり方にこだわって、思うようにいかない事が多々あります。しかし、遅いからという理由で、教員が手伝ったり代わりにしてしまえば、卒業後自立した生活を送る練習になりません。初めは出来なくて当たり前、遅くて当たり前なんです。特別支援教育は『のん気・根気・元気が大事』とよく言いますが、その通りだと思います。根気良く見守って、1人で出来た時は思いっきり褒める。この繰り返しで子どもたちは成功体験を覚え、様々な事にチャレンジしたいという気持ちが生まれていくと思います。生徒の『できた!』という言葉聞くためにこれからものんびりと構えていこうと思います。

これから教員を目指し教員になる皆さん、どんな教員になりたいですか？是非、理想を持って教員になって下さい。困難で立ち止まった時、きっと支えになるはずです。一緒に働ける日を楽しみにしています。





私が大切にしていること

特別支援学校教諭 立松 尚恵

(2012年3月子ども発達学部子ども発達学科初等教育専修卒業)

こんにちは。私は、肢体不自由養護学校の小学部5年生の副担任をしています。私の配属学級は、知的障害を伴った脳性まひのある児童が5人所属しています。

私は在学中、ダウン症の子どもたちと関わることがほとんどだったため、肢体不自由養護学校に勤務することになり、初めはとても不安でした。私はまず、周りの先生方の児童との関わり方や授業の進め方などをよく観察し、まねすることを積極的に行いました。車椅子の操作の仕方や児童の抱き方なども、他の先生方にお聞きして、やって見せていただき、一から学びました。そのおかげで児童と安全に楽しく生活することができています。

私は、児童と関わる上で、大切にしていることが二つあります。一つ目は、児童との関わりすべてに意図をもつことです。何気なく児童と関わるのではなく、常に児童一人一人に対してどうなっていってほしいかを考え、そのためにどう指導すると良いかを考えています。手を貸すところ、何もせず待つところなど、児童の発達段階とそのときの状況に合った関わり方を大切にしています。二つ目は、児童の自己肯定感を高められるような関わりをするということです。私たちは児童に対して常に前向きな言葉をかけ、小さな成長にも気づき、褒めるようにしています。児童は、教師に褒められることで自己肯定感を高めることができます。自己肯定感が高まることで、より多くのことに挑戦しようとする気持ちが生まれ、さらなる成長へとつながると感じています。私は、児童が私との関わりの中でより多くのことを学び、成長を実感できるような指導をしていきたいと強く思っています。

教師という仕事は、児童生徒や保護者、外部の関係機関との関わりなど、責任も多くあり、大変さ、難しさのある仕事です。しかし、子どもたちの笑顔と成長する姿を間近に見られるとてもやりがいと喜びのある仕事だと思います。毎朝スクールバスに児童を迎えに行くときのわくわく感はとてもいいですよ！児童が私にかけてくれる言葉や笑顔のすべてが宝物になり、働く意欲につながっています。教員採用試験に合格するまでは辛いことも多いですが、ぐっとこらえて頑張りましょう！皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

今後の予定

【新2年生】

3月27日（水）4限 1251教室 教職課程オリエンテーション

3月25日（月）～3月30日（土） 課程登録期間

☆上記オリエンテーションに出席後、課程履修費の納入及び課程登録を行ってください。

【新3年生】

4月13日（土） 教職課程オリエンテーション

☆教育実習の意義・内容・関係書類手続きについてのオリエンテーションを行います。

【新4年生】

4月13日（土） 教職課程オリエンテーション

☆教育実習にあたっての諸注意などのオリエンテーションを行います。

